

2021/5/20

証) まだ信じないのか

奥野 啓二

<マルコ4章:37-40>

激しい突風が起こり、船は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちたちはイエスを起こして、『先生、私たちがおぼれても構わないのですか』と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、『黙れ。静まれ』と言われた。すると、風は闇、すっかり凪になった。イエスは言われた。『なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。』

私は21歳のイースターに受洗しました。もう35年もクリスチャン生活を送っています。しかし本当の意味で、真に自分の罪を認め、十字架の贖いにより神様に許されていることを知ったのは、30年を過ぎてからだったように思います。

学生時代の教会生活は輝いていました。日本キリスト教団の阿佐ヶ谷教会で受洗しましたが、青年会での聖書の学び、ワークキャンプ、社会貢献活動など積極的に行いました。教会に集う同世代の仲間との切磋琢磨、それと、同世代の教会の女の子たちもみんなとても魅力的で、教会活動に没頭していました。

クリスチャンホームで育ち、神様の存在を幼い頃から信じていました。自然界の摂理や、人間の人体の不思議などから、神様の存在と御恵に疑いは少なかったと思います。しかし、イエスの十字架の贖いと罪の赦しは、今思うと方程式的な受け止め方だったかもしれません。聖書の摂理として、知識では理解していましたが、真の意味で自分の罪を見つめることはできていなかったように思います。

自分の罪と本当に向き合えたのは、2015年に5年間のタイ駐在生活を終えて、埼玉の浦和に住むことになった頃です。そのきっかけは、そこで出会った、さいたま国際教会のティム・ドリスコル宣教師の礼拝説教にありました。英語での直接的なメッセージが分かりやすかったのかも知れません。毎回、自分の信仰に対して、迫ってくる内容でした。今でも胸に残っているのは以下の言葉です。

(聖餐式のカップをじっと見つめて)

“There’s a big cost paid for this…” この盃には大変な代価が支払われている。

イエス様は信じている、日曜礼拝にもちゃんと出席している、「でもこれだけは自分には例外として許されている」、と言いつけて教えから外れたことを隠れてやっていることがありませんか？ 神はイエスの十字架を通して完全な愛を持って救ってくださったのに、あなたは、完全に自分を捧げることができないのですか。

この頃から、聖書を毎日読み、通読と、朝・晩のデボーションをはじめました。すると、今まで、自分の信仰と真摯に向き合っていなかったこと、聖書のメッセージを表面的にしか理解してないなことが、分かってきました。そして何よりも、十字架の救いは、聖書を読み、祈りを通した聖霊様の働きがないと体感できないものであることが、ようやく分かってきたのです。

話はそれますが、2018年に、今の会社から海外駐在前提でないか、と声をかけてもらいました。前職は業界最大手でしたが、もう最前線ではなく、本部で管理業務を担当してそのまま定年を迎えるモードに入っていました。米国、インドネシア、タイと海外畑を歩んできた自分にとり、50代半ばで転職でき海外でもう一度働けることは、とても魅力的なお話でした。現地での、日本人教会における宣教活動のお役にも立ちたい、と思いました。

2019年1月に転職し、11月にフィリピンの合弁会社に駐在（単身赴任）となりました。しかし、翌年2020年3月にコロナで都市封鎖となり、在宅勤務を余儀なくされました。7週間以上、誰とも会えず、ストレスも溜まっていきました。そうこうしているうちに、コンドミニアムで感染者が複数名発生しました。フィリピンに来たばかりで頼れる人もいなく、合弁会社もうまくいってなくローカルスタッフもいざという時に助けてくれるかどうか、不安がありました。

そんな頃、朝起きたら発熱があり、「感染したか」と気が動転しました。医療崩壊も始まっていたので、慣れないフィリピンで感染したらマニラの粗悪な病院に入れられ病気が悪化したら、二度と日本に帰れなくなる、一生家族とも会えなくなる、と切迫するものがあり精神的に大きく動揺しパニック状態になりました。ちょうどその時、中国やインドネシアなど、他の現地法人の駐在員が、コロナ感染のため、一旦日本に一時帰国したが、フィリピンはどうするか、との連絡が本社から入りました。

「ここで感染する前に日本に帰ろう。」

即座にそう判断し、部下を連れ、4月末に一目散に帰国してしまいました。信仰があり、全てを神様に委ねて信頼していれば、不安は起こらなかったはずです。（特に、宣教のお役に立ちたいと、本当に思っていたのなら..）

「まだ信じないのか。」

その時、イエス様の声は聞こえていませんでした。

家族と過ごす日本での生活は、安心でき快適でした。色々な面で、家族と昨年1年過ごすことができたのは、大変有意義でした。（詳細は割愛しますが）

しかし、仕事面は、大変辛いものでした。朝8時から夜10時過ぎまで在宅でのフィリピン業務が続きました。うまくいってない合弁会社ですから、日本からの現場調整や対応は困難を極めました。また日系営業も、日本人が引き上げていますから、遠隔操作でローカル社員に対応してもらわなければなりません、これが一向に上手くいきません。

人間、勝手なものです。逃げるように帰ってきたのに、今度は早く現場復帰し会社を立て直さなければと、焦りが日々募っていきました。しかし、コロナ感染が急増したフィリピンは外国人の入国を禁止、その解除をひたすら待つしかない日々が続きました。

手を尽くし、ようやく入国禁止免除の許可を入手、再赴任できたのは約1年

後の 2021 年 3 月でした。しかし、ホテル隔離・自宅隔離が終わった頃、なんとマニラ首都圏は感染急拡大のため、まさかの再度の ECQ（都市封鎖）に入ったのでした。会社にも行けず、再度、単身赴任の在宅勤務が始まりました。医療崩壊も再開し、また不安に陥りかけていました。

その時、Union Church of Manila (UCM) の Bible Study グループの姉妹から（日本帰国後も、オンラインで毎週参加していました）

” Keiji, don't be afraid, just believe ”（恐れることはない。ただ信じなさい）

と励まされました。また、別の UCM の兄弟からは、「何かあったらいつでも連絡くれ、必ず助けるから。」と電話番号を貰いました。そうでした、神様は色々な人を通して、支えてくださっている、と分かりました。自分の力に頼るから、自分に解決できない事に対して不安になる。全て神様に委ねよう、と思えるようになりました。

今は、不安が取り除かれ、安心して暮らしています。再度命の危機を感じても、「なぜ恐れるのか、まだ信じないのか」、とイエス様に言われたいよう、すべてを主に委ねて、フィリピンでの信仰生活を歩んでいきたいと思っています。

MJCC の会員となり、信仰生活の土台とさせていただくことで、より霊的に成長できるものと確信しております。キリストの体なる教会の一員となり、少しでもお役に立てるよう、神様に喜んでいただける働きができるよう、頑張りたいと思います。

よろしく願いいたします。

奥野啓二